



犬・猫のリンパ球系細胞の クロナリティ検査のご案内



犬と猫のリンパ腫などにおいて、遺伝子的に腫瘍性増殖を確認するとともに、T細胞性かB細胞性かを決定するクローン性解析検査、いわゆる**クロナリティ検査**を弊社で受け付けられるようになりました。

ご依頼方法は

1) 細胞診断＋クロナリティ検査

2) 病理組織診断＋(細胞診断)＋クロナリティ検査

(細胞診標本は、あるほうが好ましく、細胞診標本を提出されることをお勧めします)

の2通りです。

リンパ腫の確定診断のためには、病理組織診断、細胞診断、およびクロナリティ検査の3つの組み合わせが一番理想的です。

細胞診標本上の細胞からクロナリティ検査をします。細胞診標本はギムザやディフ・クイックなど染色済みのもので可能です。封入していても問題ありません。

ただし、細胞診の標本はご返却できなくなります。

料金は、従来の細胞診断あるいは病理組織診断の料金に12,000円の追加がかかります。病理検体と一緒に提出された細胞診標本の診断料は発生しません。

検査機関は東京大学動物医療センター遺伝子検査部です。

ご報告までの日数は、1週間程度です。

なお、クロナリティ検査のみは受け付けしておりませんのでご注意ください。

詳しくは弊社までお問い合わせ下さい。



(株)四国細胞病理センター
動物事業部

087-899-6011

087-899-6016